

『未来の「ながはま」を作文・絵画にしよう』コンテストの概要について

1.募集・選定結果について

- ①次代を担う子どもたちの意見等を総合計画策定の参考とするため、市内小・中学生を対象に、夏休みの自主学習のひとつとして募集
- ②応募総数546点（作文335点、絵画211点）
- ③入賞作品数77点（最優秀7点、優秀19点、入選51点）

○応募作品数、入賞作品数

	区分	応募作品数				入賞作品数			
小学校 低学年	学年	1年生	2年生	3年生	合計	最優秀	優秀	入選	合計
	作文	1	6	15	22	1	1	2	4
	絵画	33	31	50	114	1	3	11	15
小学校 高学年	学年	4年生	5年生	6年生	合計	最優秀	優秀	入選	合計
	作文	10	11	27	48	1	3	4	8
	絵画	19	27	7	53	1	2	5	8
中学校	学年	1年生	2年生	3年生	合計	最優秀	優秀	入選	合計
	作文	102	103	60	265	2	8	25	35
	絵画	34	9	1	44	1	2	4	7

2.表彰式について

- 1 表彰日時 平成27年12月6日（日）午前10:30～11:30
- 2 表彰式会場 長浜市役所1階 市民交流ロビー
- 3 出席者 最優秀・優秀賞受賞者 26名



3. 展示について

①長浜市役所 1 階 市民交流ロビー

平成 27 年 12 月 1 日（火）～平成 27 年 12 月 11 日（金）

②アル・プラザ長浜 1 階正面玄関付近

平成 28 年 1 月 5 日（火）～平成 28 年 1 月 17 日（日）

○最優秀賞

	学校名	学年	氏名	作品名
作文	湯田小学校	3 年	しみず たいよう 清水 太陽	助け合う長浜市
作文	湯田小学校	6 年	みやもと まこ 宮本 真子	未来の「ながはま」 こんな町になったらいいな
作文	びわ中学校	2 年	なかがわ みき 中川 美紀	こんなまちになったらいいな
作文	長浜北中学校	3 年	きたがわ まい 北川 舞	帰りたくなる街へ
絵画	永原小学校	2 年	にしむら ゆうあ 西村 優亜	みんなわくわくすてきな町
絵画	七尾小学校	5 年	ふじた みき 藤田 美紀	楽しいまち、元気が出るまち、長浜
絵画	湖北中学校	1 年	はやせ ふうか 隼瀬 風花	伝統を受け継ぐ町

○優秀賞

	学校名	学年	氏名	作品名
作文	長浜北小学校	3 年	ひぐち ひろき 樋口 拓希	オリンピックができる長浜市
作文	湯田小学校	5 年	なかがわ さら 中川 咲来	未来の『ながはま』
作文	長浜南小学校	6 年	しみず りこ 清水 理子	私が考える未来の「ながはま」
作文	七尾小学校	6 年	なかむら えみ 中村 恵美	ありがとうの花を咲かせよう
作文	長浜北中学校	2 年	まえがわ かほ 前川 佳穂	未来の長浜市

	学校名	学年	氏名	作品名
作文	長浜北中学校	2 年	やまぐち あやの 山口 綾乃	温かいながはま
作文	長浜北中学校	3 年	きたむら まい 北村 真唯	私の憧れる街
作文	長浜北中学校	3 年	やまざき さなこ 山崎 紗菜子	未来図
作文	高月中学校	1 年	のむら ようへい 野村 耀平	未来のながはま
作文	高月中学校	3 年	うえすぎ ともき 上杉 朋輝	僕が望む未来の理想の『ながはま』
作文	高月中学校	3 年	さかもと なぎさ 坂本 渚	未来の「ながはま」
作文	高月中学校	3 年	ふくだ まい 福田 麻衣	国際的で平和なながはまの街
絵画	虎姫小学校	1 年	やまだ りこ 山田 梨湖	琵琶湖の水でジェットコースター
絵画	湯田小学校	2 年	おくなが さち 奥長 彩知	みんないっしょにきれいなほしを 見られる長浜のまち
絵画	古保利小学校	3 年	もとむら りこ 元村 莉子	だれもが楽しくくらせるやさしい まち長浜市
絵画	神照小学校	4 年	ふじい かほ 藤井 香歩	ながはま（ひょうたん）タワー&遊 園地（長浜）駅
絵画	長浜小学校	5 年	しば たくや 芝 拓弥	未来の「ながはま」
絵画	浅井中学校	1 年	たなべ まお 田邊 真央	カラフルタウン
絵画	長浜北中学校	2 年	ふじた のぞみ 藤田 希実	笑顔あふれる緑の街

○最優秀作品（絵画）



永原小学校 2年

にしむら ゆうあ
西村 優亜



七尾小学校 5年

ふじた みき
藤田 美紀



湖北中学校 1年

はやせ ふうか
隼瀬 風花

「たすけ合う長浜市」

湯田小学校 三年 清水 太陽

今年大路では、自ち会長さんが夏休み自ち会かんでべん強会をやってくれました。ぼくは、一人で勉強するとあんまりすすみません。分からないところがあるとやめてしまって、あそんだりテレビをみたりするからです。ふだん、話したことのない自ち会長さんやボランティアの人となかよくなれてよかったです。自ち会長さんは、僕をたくさんほめてくれてうれしかったし、大路のみんなでべん強できてもよかったです。

ぼくは、ほかの長浜市でもやったらいいなと思います。そしたら、長浜市の子どもたちみんなが夏休みいっぱいべん強できるし、かしこくなると思います。ぼくのお父さんとお母さんは、はたらいっているので夏休みのべん強をみてくれる時間がありません。今年べん強会があつてすごく助かると言っていました。ぼくもお父さんやお母さんは、今年は、あんしんして会社に行けたと思います。そんなみんなでたすけ合う長浜市になったらいいなと思います。そしたら、長浜市は、もっといい町になると思います。

○最優秀作品（作文）

「未来の『ながはま』」

こんな町になったらいいな」

湯田小学校 六年 宮本 真子

先日私は、市内でかっこいい女性を見かけました。車いすに乗った人がトイレに行く時に、トイレのドアを開けながら、車いすからおりようとしていて、困っておられました。その時、私のとなりになっていた女性が

「大丈夫ですか。」

と声をかけ、トイレのドアを開け、車いすの人に手をさしのべておられました。それを見た時「かっこいいな」「私もあんなふうに困っている人にさっと手をさしのべられる人になりたい」そう思いました。

私の学校でも同じような光景を見かけることがあります。先生の荷物を、自分から進んで

「先生持ちます。」

と、声をかけている友達です。大人になっても迷うことなく困っている人に声をかけられるような人だと思います。

でも、それとは逆に、声をかけたくてもはずかしくてなかなか声をかけられない人もいます。そんな人も、少しだけ、勇気を出して声をかけることができたら、きっと、笑顔のお礼が返ってきてとてもうれしい気持ちになると思うので、声をかけてほしいです。

私のおじいちゃんは近所の子供が悪いことをしているととても大きな声でおこります。初めて見た時はびっくりしたけど、知らない子供でもちゃんとしかってあげられるおじいちゃんをとて、ものけいしています。

地域の人が、いつも子供を見守って、育ててくれると思うと、何だか心があたたかくなりました。

未来のながはま市は、今よりもっとたくさんの人が「困っている人に迷わず手をさしのべる人があふれている町」で、「地域の人が家族みたいな町」そんなながはま市になったらいいと思います。

○最優秀作品（作文）

「こんなまちになったらいいな」

びわ中学校 二年 中川 美紀

私が、未来の『ながはま』がこんなまちになったらいいなと思うのは三つあります。

一つめは、元気なあいさつをだれもができるまちです。あいさつは笑顔になれる魔法の言葉だと私は思います。例えば、道を歩いていて近所の方などにあいさつをしてもらったとします。だれだって嬉しくなりますよね。

そこで、私も努めて顔見知りの近所の方にはあいさつをするようにしています。すると、近所の方々はあいさつを返してくださいます。だれもがにこにこ笑顔で、とても嬉しそうに見えます。そのとき、私は思いました。あいさつほど気持ちのよいものはないと。たったの一言、それだけで笑顔の輪が広がるのです。とても小さなことですが、コツコツと続けていくと、『ながはま』は思いやりのある温かいまちになると思います。

二つめは、犯罪のない安全なまちです。最近学校で、不審者情報を多く聞くようになりました。しかも学区内ということもあります。

テレビのニュースなどで、学生が巻き込まれた痛ましい事件が報道されることがあります。可哀相だとは思っても、自分のことのようにとは思えません。しかし、他人事だと思っていたことがいつ自分の身にふりかかってもおかしくないようなまちになってしまったのです。

私は、こんなまちには住みたくありません。だから、もし危険なことにあったら隠さずに家の人や学校の先生などに打ち明けることが大切だと思います。そして、警察の方に『ながはま』を守ってもらいたいです。

三つめは、自然が豊かなまちです。私たちの学校では『ヨシ行けどんどん作戦』という取り組みを行っています。ヨシを育てて植え、琵琶湖の自然を守っていきこう、というものです。自然を守ることはとても大切だと思います。テレビで地球温暖化が進んでいるということをよく言っています。世界規模でそれはとても深刻になっています。『ながはま』もこれについての対策を何か考えるべきだと思います。例えば節電。だれもいない部屋は電気を切ったり、エアコンの設定温度を一度変えたりなど呼びかけていくべきだと思います。

今の『ながはま』にも良いところがあります。良いところは未来へ受け継ぎ、悪いところは今で断ち切り、未来の『ながはま』が良いまちになったらいいなと思います。

○最優秀作品（作文）

「帰りたくなる街へ」

長浜北中学校 三年 北川 舞

私は将来いろんな施設が整って、今よりもっと便利になったながはまに住んでみたいです。長浜は他の街と比べても、比較的なんでもあって住むのにはとても便利な街だと思います。でも、友達と遊んだりできるような施設や、音楽などを楽しめるホールなどの娯楽の場が少ないと思います。そういう場所があると、地元からだけじゃなくて、他の地域からも人が来たりすると思うので、ぜひつくってほしいと思いました。

私は吹奏楽部で、いろんな地域のお祭りに呼ばれたり、コンクールなどでよくホールを利用します。そしてそれに加えて地元の合唱団にも入っているのですが、県外のホールもたくさん利用しています。だから、長浜のホールの少なさや設備のちがいがよく分かります。たとえば、彦根のホールは、客席も2階まであって、建物の中に何個もホールがあって、ステージも広々としているのに対して、長浜のホールは、楽屋が三部屋しかなかったり、舞台装置も古いものしかなかったりします。これでは、大きなコンサートはできないし、集客は見込めないと思います。これはホールに限ったことではありません。ショッピングモールも映画館もないような街では、若い人たちは出て行ってしまいうし、街も活性化しないと思います。せっかく飲食店や病院、保育園などの施設は充実している街なんだから、そういう娯楽施設が増えれば、もっと住みやすくて、若者にも魅力的な街になるんじゃないかなと思いました。

そして長浜がどんどん便利になっていっても、無くなっではいけないのが、住む人たちの温かさだと思います。私の周りの人たちもよく部活に行く私たちの姿を見かけると、「コンクールどうやった?」とか、「部活がんばって。」という声をかけてくださいます。そうやって声をかけられることで、いろんな人たちに見守られているという実感がわいて、もっとがんばろうと思えます。こういう、都会ではなかなかできない体験ができるのは長浜の魅力だと思います。だから、生活が便利になって、豊かな街になっても、この人と人のつながりだけは忘れないようにしたいです。

最後に、これからの長浜をつくっていく私たちは、*みんな*とかに夢中になって、面と向かってとるコミュニケーションをそこまで重要としなくなってしまうけど、今の長浜の魅力である人の温かさを無くさないように、しっかり受けついでいきたいと思います。そして、都会に出ていった人たちに、もう一度長浜に帰ってきたいと思ってもらえる街づくりをしていきたいと思います。